

国土技術開発賞



情報・企画部
技術参事役

田邊 輝行

1 はじめに

「国土技術開発賞」は、建設分野における研究開発意欲の高揚と建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設分野における優れた新技術を国土交通大臣が表彰するものである。

最優秀賞（国土交通大臣賞）、優秀賞（同）に選ばれた技術は「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞の候補として国土交通省が設置する選考有識者会議へ推薦される。

また、中小建設業者、専門工事業業者等の創意工夫やアイデアにあふれる技術を特別賞の創意開発技術賞（国土交通大臣賞）として表彰している。

2 第26回国土技術開発賞の概要

2.1 応募技術の対象

住宅・社会資本整備もしくは国土管理に係わる、調査・測量・計測手法、計画・設計手法、施工技術、施工システム、維持管理手法（点検・診断技術、モニタリング技術を含む）、材料・製品、機械・設備、電気・通信、伝統技術の応用などの広範に亘る技術で、概ね近年5年以内に技術開発され、かつ既に実用に供された新技術が応募技術の対象である。

2.2 応募資格等

(1) 応募者

応募者は、応募技術の開発を直接かつ中心となって実施し、かつ開発された技術に対して責任をとれる者（個人^{*1}、民間法人、行政機関等）としている。応募者が複数となる場合は、原則2名までとしている。

(2) 技術開発者

技術開発者は、応募技術の開発に直接かつ中心となって携わった者の内、“特に技術的に重要な役割”を担った担当者とし、技術開発者が複数になる場合は、1団体2名まで、かつ1応募

技術あたり原則3名までとしている。また、応募者は、応募者に所属する技術開発者を1名以上申請するものとしている。

(3) 共同開発者

共同開発者は、応募技術の開発に関し、応募者とはならないまでも、技術的に重要な役割を持って参画を行った者（個人^{*1}、民間法人、行政機関等）としている。

*1「個人」とは大学等^{*2}の学識経験者等を指す

*2「大学等」とは、大学、大学院、工業高等専門学校を指す

2.3 募集期間

令和5年10月11日（水）～令和6年1月11日（木）

2.4 応募技術の状況

第26回国土技術開発賞は27件の応募があった。

適用分野別では、例年どおり道路分野が最も多く、それに河川分野、港湾分野、建築分野が続いている。

技術区分別では、今回も施工技術の応募が最も多かったが、維持管理、材料・製品、ソフトウェア、調査・測量・計測、及び地震対策など、多様な区分からの応募があった。

2.5 選考方法

第26回国土技術開発賞選考委員会により、厳正かつ公正に選考された。選考委員会のメンバーは以下の通りである。

委員長 池淵 周一 京都大学 名誉教授

委員 三木 千壽 東京都市大学 名誉学長

// 和田 章 東京工業大学 名誉教授

// 吉岡 幹夫 国土交通省 技監

// 石橋 洋信 国土交通省大臣官房技術総括審議官

// 林 正道 国土交通省大臣官房技術審議官

// 佐々木 隆 国土交通省国土技術政策総合研究所長

// 大木 章一 国土交通省国土地理院長

// 藤田 光一 国立研究開発法人土木研究所理事長

// 澤地 孝男 国立研究開発法人建築研究所理事長

// 河合 弘泰 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 所長

委員 徳山日出男（一財）国土技術研究センター理事長
 // 宮崎 祥一（一財）沿岸技術研究センター理事長

2.6 選考結果

第26回国土技術開発賞では、選考委員会による選考の結果、表1に示す5件の受賞技術が決定した。

表1 第26回国土技術開発賞 受賞技術一覧

	応募技術名称	応募者
優秀賞 【3件】	後方回転・自走式手延機解体装置	(株) 横河ブリッジ
	地盤改良工法の自動打設システム	(株) 不動テトラ
	高耐久超低騒音舗装	首都高速道路 (株) ニチレキ (株)
入賞 【1件】	フラップゲート式可動防波堤の開発	日立造船 (株) 東洋建設 (株)
創意開発 技術賞 【1件】	マンホール鉄蓋取替工法	(株) シー・エス・ケエ

(応募の受付順による)

第26回国土技術開発賞受賞技術の概要は、歴代の受賞技術の概要と共に JICE HP (<https://www.jice.or.jp/>) に掲載している。この他、(一財)経済調査会発刊の「建設マネジメント技術」には、令和6年12月号から受賞技術5件の詳細論文が連載で掲載されており、同誌発刊と同時に JICE HP にも掲載している。

2.7 第26回国土技術開発賞 表彰式

第26回国土技術開発賞の表彰式は令和6年7月31日に東京国際フォーラムにおいて、斉藤鉄夫国土交通大臣のご臨席を賜り厳粛かつ和やかな雰囲気の中で執り行われた。(写真1)



写真1 来賓挨拶 (斉藤鉄夫 国土交通大臣)

優秀賞3件及び創意開発技術賞1件については斉藤鉄夫国土交通大臣より(写真2)、入賞1件については池淵周一選考委員会委員長より、表彰状と副賞がそれぞれ授与された。



写真2 優秀賞表彰 (斉藤鉄夫国土交通大臣)

2.8 第26回国土技術開発賞 受賞技術紹介

第26回の国土交通大臣賞受賞4件の受賞技術紹介

(1) 技術名：後方回転・自走式手延機解体装置 (優秀賞)

副題：重機が使用できない場所での解体

技術概要：橋梁の送り出し架設工法に使用する仮設手延機を、重機を使用せず安全に解体できる自走式手延機解体装置を開発。重機ヤード不要となり送り出し工法の適用条件拡大に寄与。

(2) 技術名：地盤改良工法の自動打設システム (優秀賞)

副題：GeoPilot-AutoPile

技術概要：深層混合処理工法の大型施工機で初となる自動打設システムを開発。施工管理・安全管理を自動制御しオペレータの熟練度に左右されない安定した施工能率・品質提供を確保。

(3) 技術名：高耐久超低騒音舗装 (優秀賞)

副題：損傷対策型小粒径ポーラスアスファルト混合物

技術概要：従来の「低騒音・排水性に優れるポーラスアスファルト混合物」を、超高耐久改質バインダと空隙率を縮小した配合の技術開発により、超低騒音、低燃料、高耐久の舗装を開発。

(4) 技術名：マンホール鉄蓋取替工法 (創意開発技術賞)

副題：セイフティーフラット工法

技術概要：最小面積で舗装切断する円形カッターの開発、及び小規模舗装の早期復旧に有用な超速硬無収縮モルタルと加熱合材の車上製造プラントを開発し、鉄蓋取替工をシステム化。

3 おわりに

住宅・社会資本に係わる各分野の新技术は、新たな国土の創造を下支えするものであり、今後も積極的な推進は不可欠である。今回受賞した新技术は、国土に働きかけて国土から恵みを受け取るために、そして次世代へ力強く美しい国土を残すために、幅広く社会に活用されるものと確信している。JICEとしては今後も、社会が求める優れた新技术の開発の推進とその活用促進に向けて、引き続き努力を行ってまいりたい。